活動レポート　北方海域技術研究委員会

文責：北方海域技術研究委員会幹事　**橋本孝治**

平成 28 年度の活動報告

1. はじめに

北方海域技術研究委員会は、「技術士を中核とした北の海のネットワークづくり」に主眼をおき、平成 16 年度から活動を開始し、現在は、日本技術士会北海道本部社会活動委員会における研究会の 1 つとして活動を続けている研究グループです。

特に近年では、地球温暖化に伴う海水温の上昇、海面の上昇、極端現象の拡大などの物理・化学的変化、ならびに魚種・無脊椎動物の種の分布の移動や資源量の変化等のリスクが指摘されていることを受けて、北海道周辺の海洋環境変化とそれによる沿岸社会に与えるインパクトに視点を置き、具体的に何が起きつつあるか、今後どのようなことに直面する可能性があるかについて知見を深め、情報を発信することを目的に活動しております。

2. 平成 28 年度の活動報告

平成 28 年度は、4 回の講演会と 8 回の幹事会を開催しました。計 4 回の講演会では、多岐にわたる分野から 11 名の講師をお招きし、北方海域に係る様々な話題について議論を行いました。また、各講演会ともに 40 ～ 60 名ほどの参加を得るとともに、講演会終了後の意見交歓会にも多数参加頂き、有意義な会を開催することが出来ました。

以下に平成 28 年度の活動概要をご紹介します。

(1) 特別講演会の概要

講演 1：寒地土木研究所　寒地水圏研究グループ水産土木チーム　研究員、大橋正臣氏をお招きし、「寒地土木研究所　水産土木チームの研究について」と題して、これまでの研究概要・成果や今後の研究課題についてご講演頂きました。

講演 2：元東海大学教授、谷野賢二氏をお招きし、「私の水産工学」と題して、これまで氏が向き合ってきた水産工学についてご説明頂くとともに、「着想の瞬間の大切さ」「発想の転換の必要性」「失敗に学ぶ

図-1　北方海域技術研究委員会のパンフレット

表-1　平成 28 年度の講演会等の開催状況

H28.5.27	平成 28 年度　総会・特別講演会 会　場：ホテルポールスター札幌 参加者：技術士会員 26 名、非会員 32 名
H28.7.22	平成 28 年度　講演会 会　場：かでる 2・7　940 研修室 参加者：技術士会員 22 名、非会員 33 名
H28.9.16	平成 28 年度　定例会 会　場：小樽開発建設部　小樽港湾事務所 参加者：技術士会員 14 名、非会員 27 名
H28.11.25	平成 28 年度　技術研究発表会 会　場：寒地土木研究所　1 階講堂 参加者：技術士会員 18 名、非会員 34 名

重要性」について、お話し頂きました。

(2) 講演会の概要

講演 1：北海道立総合研究機構　森林研究本部　林業試験場　森林環境部　機能グループ　研究主幹、長坂晶子氏をお招きし、「森と海のつながりの実態にせまる」と題して、森・川・海とつながる生態系・物質循環について調査結果をもとにご説明頂いた。

講演 2：東海大学　生物学部　海洋生物科学科　教授、櫻井泉氏をお招きし、「マナマコの資源増大に向けた増養殖研究への取り組み」と題して、増養殖研究の現状と課題について説明頂き、有効餌料の検討や中間育成施設の開発に係る事例紹介を頂きました。

(3) 定例会の概要

講演 1：北海道立総合研究機構　地質研究所　資源環境部　沿岸地質グループ　研究主幹、内田康人氏をお招きし、「沿岸海域活断層の活動履歴を探る」と題して、海域活断層の調査方法やこれまでの調査結果についてご報告頂いた。

講演 2：北海道立総合研究機構　中央水産試験場　資源管理部　資源管理グループ　研究主幹、星野昇氏をお招きし、「石狩湾産ニシン増大への道のり、そして今後」と題して、種苗放流事業により資源回復の兆しがある一方、放流後の死亡原因の解明や放流方法の改善などの研究を進める必要性についてご講演頂きました。

講演 3：日本データーサービス株式会社　顧問、関口信一郎氏をお招きし、「工学博士廣井勇と築港」と題して、廣井博士の人物像から技術者としての理念までを幅広くお話し頂き、技術者として取り組むべき姿勢についてご講演頂いた。

(4) 技術研究発表会の概要

講演 1：寒地土木研究所　寒地水圏研究グループ　水産土木チーム　研究員、三森繁昭氏をお招きし、「日本海北部海域における周年の水域環境と生物生産性向上に向けた検討」と題して、武蔵堆周辺を対象にした周年の基礎生産構造についてご説明頂いた。

講演 2：寒地土木研究所　寒地水圏研究グループ　寒冷沿岸域チーム　主任研究員、大塚淳一氏をお招きし、「自由落下式密度計を用いた港内浮泥調査について」と題して、浮泥の厚さや密度を簡易に測定する手法や可航水深の考え方についてご説明頂いた。

講演 3：水産研究・教育機構　北海道区水産研究所　所長、中津達也氏をお招きし、「北海道区水産研究所の研究課題～環境、資源の変動について～」と題して、主要魚種における資源変動の現状と問題点や資源安定化のための対策等についてご説明頂いた。

講演 4：北海道大学　北極域研究センター　教授、大塚夏彦氏をお招きし、「北極研究のいま：世界、日本、北海道」と題して、北極の利用、北極海の資源開発、北極海航路、北極に関わる国際規制等についてご説明頂いた。

3. おわりに

平成 29 年度においても計 4 回の講演会を開催し、北方海域に関わる諸問題について議論を深めていく予定です。

北海道は、太平洋、日本海、オホーツク海の 3 つの海に囲まれ、流氷が接岸する最南端の地に当たります。これらの海の持続的な開発を進めるための環境の保全と創造に努め、海域を取り巻く諸問題について調査研究を行い、議論を行う中から各方面への提言を行い、具現化を図ることを目的に、今後とも活動を継続して参ります。引き続き当研究委員会へのご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、平成 29 年度に役員の変更がありますので、表-2 のとおりご案内いたします。

表-2　平成 29 年度役員一覧（敬称略）

代　　表	若　林　隆　司
副 代 表	斉　藤　敦　志　（新任）
	大　橋　正　臣
幹 事 長	松　本　英　明　（新任）
幹　　事	橋　本　孝　治
	北　原　繁　志
	山　口　幹　人
	河　合　孝　治
	北　川　紀　洋
	土　井　善　和
	井　上　真　仁
	峰　　寛　明